

## 「交通安全」に関する調査 (調査結果の概要)

2010年11月19日  
社団法人 中央調査社  
CENTRAL RESEARCH SERVICES, INC.  
東京都中央区銀座 6-16-12  
電話 03-3549-3121

世論調査、市場調査の専門機関である社団法人 中央調査社（会長 中田 正博）は、「交通安全」に関する全国意識調査を実施しました。調査は、9月2日から12日にかけて、無作為に選んだ全国の20歳以上の男女個人を対象に個別面接聴取法で行い、1,314人から回答を得ました。主な調査結果は以下のとおりです。

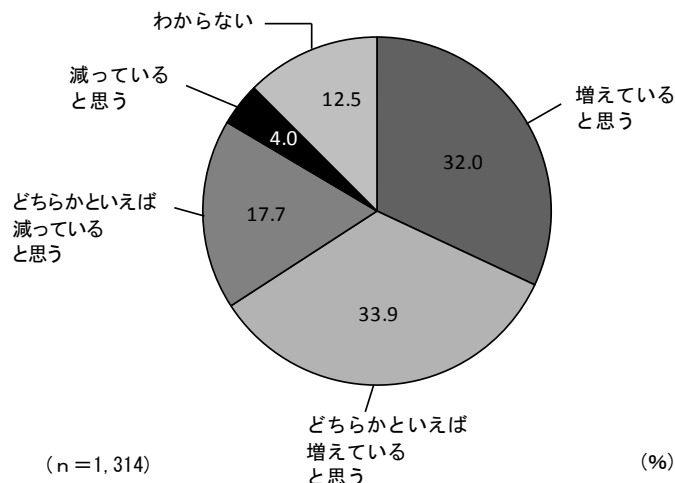
- 交通事故の発生件数に対する意識 — 「増えていると思う」65.8%—
- 交通事故にあうかもしれないと不安に思うこと — 7割以上が「ある」—
- 交通事故にあった経験、あいそうになってヒヤリとした経験の有無 — 3人に2人が「ある」—
- 交通事故にあった経験、あいそうになってヒヤリとした経験（状況）  
— 都市規模別で状況に大きな違い—
- 交通事故にあった経験、あいそうになってヒヤリとした経験（相手）  
— 相手は「自動車」が7割超—
- 交通事故防止対策 — 最多は「飲酒運転など違反に対する罰則強化」—

(次頁以降に詳細)

1. 交通事故の発生件数に対する意識 — 「増えていると思う」 65.8% —

最近の交通事故の発生件数について、増えていると思うか、減っていると思うかを聞いたところ、「増えていると思う」と「どちらかといえば増えていると思う」と答えた人をあわせた「増えている」と感じている人は、65.8%と3人に2人くらいの割合を占めている。

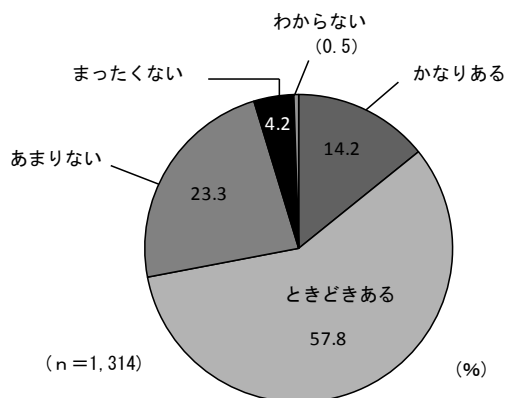
(図1 交通事故発生件数に対する意識)



2. 交通事故にあうかもしれないと不安に思うこと — 7割以上が「ある」 —

交通事故にあうかもしれないと不安に思うことがあるかどうかを聞いたところ、「かなりある」(14.2%)と「ときどきある」(57.8%)と答えた人をあわせた「不安がある(計)」は、72.0%であった。都市規模別でみると、20大都市では「不安がある(計)」は77.7%と8割近くにのぼっている。

(図2-1 交通事故遭遇への不安感)



(図2-2 交通事故遭遇への不安感

—都市規模別)

	不安がある(計)	不安はない(計)
総数	72.0	27.5
〔市郡規模別〕		
20大都市	77.7	22.0
その他の市	70.0	29.4
郡・町村	69.9	29.5

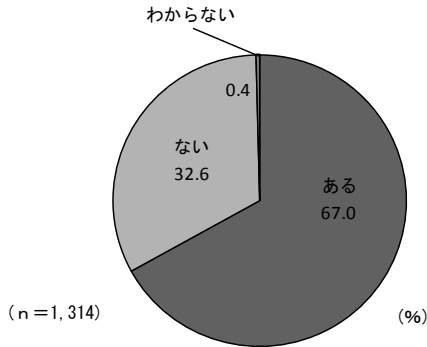
(注)「不安がある(計)」=「かなりある」「ときどきある」の合計

「不安はない(計)」=「あまりない」「まったくない」の合計

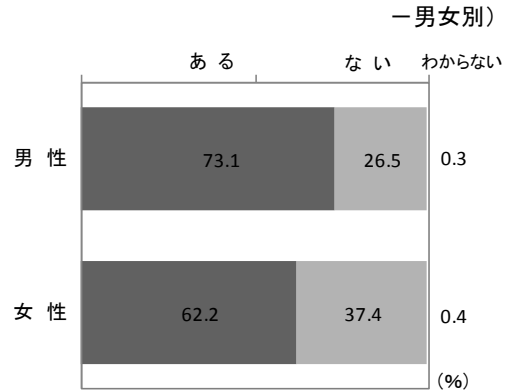
3. 交通事故にあった経験、あいそうになってヒヤリとした経験 — 3人に2人が「ある」 —

実際に交通事故にあったこと、またはあいそうになってヒヤリとしたことがあるかどうかを聞いたところ、経験が「ある」と答えた人は 67.0%と、ほぼ3人に2人の割合であった。男女別では、男性(73.1%)の方が女性(62.2%)より10ポイント以上高くなっている。

(図 3-1 交通事故遭遇・ヒヤリとした経験)



(図 3-2 交通事故遭遇・ヒヤリとした経験 — 男女別)



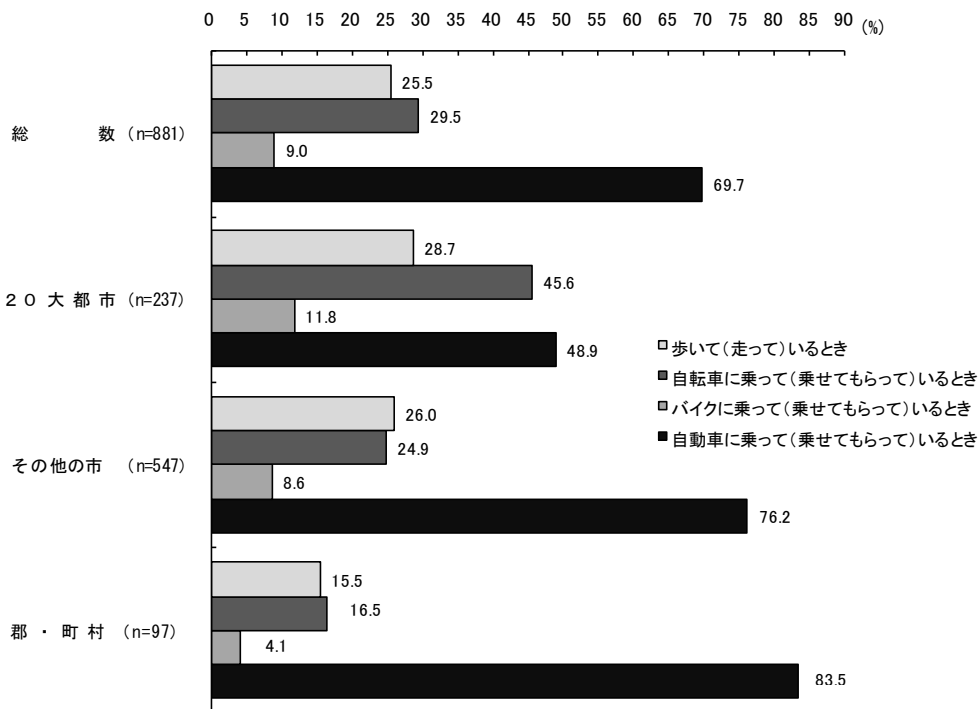
4. 交通事故にあった経験、あいそうになってヒヤリとした経験 (状況)

— 都市規模別で状況に大きな違い —

交通事故にあったこと、またはあいそうになってヒヤリとしたことが「ある」と答えた人を対象に、そのときの状況について聞いたところ(複数回答可)、全体では、「自動車に乗って(乗せてもらって)いるとき」が最も多く69.7%であった。都市規模別にみると、「自動車に乗って(乗せてもらって)いるとき」という人が、「郡・町村」では8割を超えるのに対し、「20大都市」では5割弱である。「20大都市」では、「自転車に乗って(乗せてもらって)いるとき」が45.6%と他の地域に比べて格段に高くなっている。

(図 4 交通事故遭遇・ヒヤリとした経験 (状況) — 都市規模別)

\* 複数回答

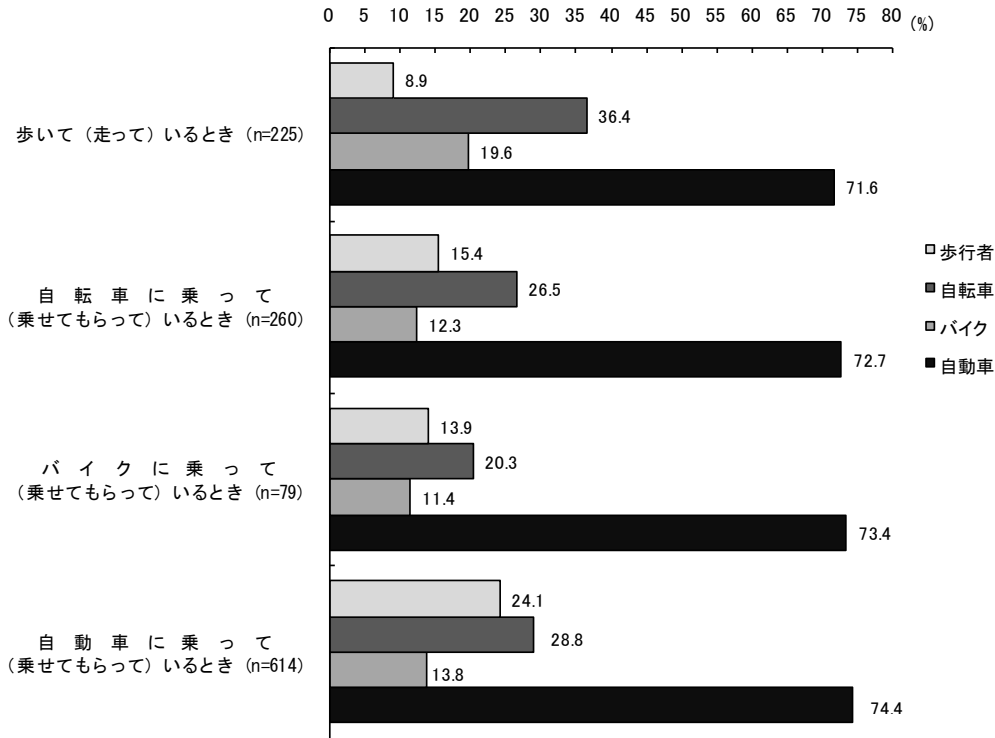


5. 交通事故にあった経験、あいそうになってヒヤリとした経験（相手）

－相手は「自動車」が7割超－

交通事故にあったこと、またはあいそうになってヒヤリとしたことが「ある」と答えた人を対象に、そのときの相手が何であったかを状況別に聞いたところ（複数回答可）、いずれの状況においても、相手は「自動車」と答えた人が7割を超えている。歩いて（走って）いるときは、「自転車」「バイク」相手がそれぞれ 36.4%、19.6%と、他の状況に比べて高くなっている。

（図5 交通事故遭遇・ヒヤリとした経験（相手）－状況別） \*複数回答

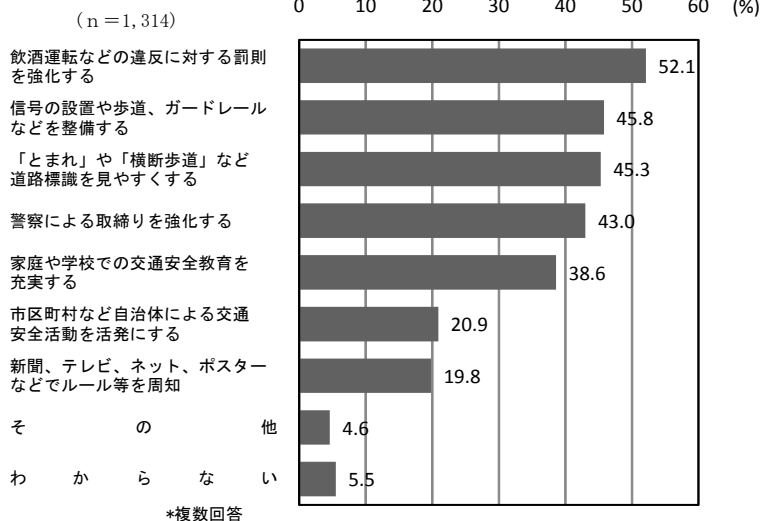


6. 交通事故防止対策

－最多は「飲酒運転など違反に対する罰則強化」－

交通事故を防止するためにどのような対策が必要だと思うかを聞いたところ（複数回答可）、最も多かったのは「飲酒運転などの違反に対する罰則を強化する」で、52.1%であった。続いて、「信号の設置や歩道、ガードレールなどを整備する」が 45.8%、「「とまれ」や「横断歩道」など道路標識を見やすくする」が 45.3%、「警察による取締りを強化する」が 43.0%と、司法や行政への要望が上位を占めている。

（図6 交通事故防止対策）



(調査の設計・方法など)

- (1) 調査地域 全 国
- (2) 調査対象 満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 4, 000
- (4) 抽出方法 層化三段無作為抽出法
- (5) 調査方法 調査員による個別面接聴取法
- (6) 調査時期 2010年9月2日～12日
- (7) 有効回収数 1, 314

(問い合わせ先) 〒104-0061 東京都中央区銀座 6-16-12  
社団法人 中央調査社 (担当 園山)  
TEL 03-3549-3121 FAX 03-3549-3126  
ホームページ : <http://www.crs.or.jp>